

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500357		
法人名	医療法人 静光園		
事業所名	グループホーム きらめき		
所在地	福岡県大牟田市上白川町1丁目246		
自己評価作成日	平成22年11月23日	評価結果確定日	平成23年2月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階
訪問調査日	平成22年12月10日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの基本である、尊厳、ご本人様本位という事を、何より大切に考え支援しています。当グループホームの地域は特に地域力という点で優れているように思います。事業所の行事[春まつり、納涼祭、収穫祭、防災訓練、運動会、クリスマス会等]に積極的に参加され、ご利用者様の見守り、交流を図って頂いています。また、地域の行事『一泊旅行、日帰り旅行、高齢者の集い、小学校運動会、文化祭、地域清掃、お祭り等』に必ず施設まで出向いて案内を頂きます。地域に根付いた生活という部分に特に力を入れています。事業所でもNPO法人しらかわの会に入会しており、お互いを支え合っていきたいと頑張っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型居宅介護や認知症対応型通所介護事業所と併設されており、研修や緊急時における連携、協力や、交流の機会がある。また母体となる静光園白川病院にも近く、同敷地内には、地域交流センターや高齢者専用賃貸住宅が隣接している。地域との相互の働きかけが行われる中で、今年度は、地域住民の参加による避難訓練が実現し、連携は深まりをみせている。また地域住民を主体とするNPO法人「しらかわの会」にも参加し、地域づくりへ向けた連携を図っており、今後の発展が大いに期待される。開設して3年目を迎える中で、事業所としての課題にも真摯に向き合い、入居者本位の支援を追求しており、来訪者を迎える入居者の方々の豊かな表情からは、日々のつながりを窺い知ることができる。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	設立時より掲げている理念「安心笑顔思いやり、和をもって地域と共に支えます」を毎日申送り時に唱和しているが、唱えるだけで終えないよう、会議等で意識付けしている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念が、開設時に職員間で作成されている。申し送り時には理念を唱和し、また毎月の会議等においては、立ち返る場所(理念)として、日々のケアを確認している。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事や清掃活動に、ご利用者と共に参加している。小中学校の訪問受け入れ、地域ボランティアの来訪も多い。	今年度は、地域住民の協力、参加を得た避難訓練が実現している。地域行事、活動に参加したり、小、中学生や地域ボランティアの来訪する機会も多い。地域住民を主体として運営されるNPO法人「しらかわの会」にも入会しており、今後の発展が楽しみとなる。地域交流センターでは、大牟田市中心地区商店街有志による「よかもん商店街」の出張出店が行われ、入居者も買い物を楽しむ機会となった。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流センターを軸に地域の方々との触れ合いを通し理解支援を行っているが、十分に活かしているとはいえないかもしれない。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて頂いた意見評価はファイルし、施設会議にて共有、意見を交わしケア実践状況の見直しを図っている。改善できるところはすぐに実践に努めている	運営推進会議は、入居者、家族、地域住民、行政担当者、母体病院地域連携室職員等のメンバー構成にて定期開催されている。派出所警察官の出席を得たり、地域住民や実習生が飛び入りで参加することもある。活発な意見交換が行われる中、厳しい意見も頂きながら、運営に活かしている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大牟田市の認知症ケアコミュニケーション推進事業と一緒に取り組み街作りにとりくんでいる。	運営推進会議には、大牟田市職員、地域包括支援センター職員の出席を得ている。事業者協議会や徘徊SOSネットワーク模擬訓練等における連携、また施設長は認知症コーディネーターとしても行政との連携を図っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修でも取り入れ本人の思いに目を向け拘束のない生活をして頂いている。予測される危険な状況は日頃からご家族に伝え話し合っって対処している。	日中は施錠していない。地域行事等に参加することで、地域との顔なじみの関係があり、また近隣のガソリンスタンド従業員への声かけも行われており、今後は運営推進会議出席への働きかけも予定している。予測されるリスクについては、家族との話し合いも行いながら、支援の方向性を共有している。研修により、職員間の共有認識を図っている。

福岡県 グループホーム きらめき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を設け、虐待がどんなものであるか理解して未然に防げるように考えている。管理者はスタッフのストレスケアにも視点がもてるように心掛けている		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、ご利用者に必要な方がいれば、専門につなげるようにしている	日常生活自立支援事業や成年後見制度については、年間研修計画の中に位置付けながら、学ぶ機会の確保に努めている。必要時には、母体法人や関係機関との連携を図りながら、支援につなげている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結はご本人ご家族に十分な説明のもと行っている。サービスの変更時は、れんけいをとりご本人ご家族の状況を悪化させないようにしている		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会等で、ご本人ご家族が要望された事、意見は記録し、伝達し解決できるようにしている	家族会が3ヶ月に1回、入居者、家族、職員の参加により開催されている。意見や要望があった場合には、職員間で共有し、迅速な対応に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営状況、実際のサービスの現状を踏まえ、実際に可能であるか、ケアマネージャーやスタッフとツク検討している	毎月開催される「きらめき会議」では、職員意見を収集、検討しながら、母体法人へと無記名で報告、提案している。今年度は職員の要望による車両購入が実現している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	ご利用者の内容や事業所の状況を総合的に考えスタッフの働きやすい環境が良いケアにつながると考えているので、気になる点は面談をして解決するようにつとめている		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	書面だけの判断ではなく事業所の特徴や期待する事をつてえ、面談によって採用を判断するようにしている	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。法人としての採用となり、全員常勤職員となっている。研修の機会も多く、ストレスケアにも配慮しながら、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム きらめき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症、権利擁護野の研修を取り入れ「人」としての関わりを大切にするように努めている	認知症ケアや権利擁護、身体拘束、高齢者虐待防止等の研修を通じて、日々のケアの場面において、人権と尊厳を守る支援となるよう意識を高めている。ロールプレイングやグループワークが行われている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画や法人外の研修に参加してもらい他の事業所との情報交換も大切にしている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大牟田市主催の研修になるべく参加して、同業者との交流、意見等頂くようにしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	すぐにサービスを始めるのではなく、信頼関係の構築や意見等を通して本人の意思、自己決定を大切にしている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護予防教室や交流施設行事、公民館活動を通して話す機会を透くり関係づくりに努める様になっている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況に合わせて、柔軟に対応できる事を説明して、話し合いのうえで、サービス内容を決め、実際の結果で調整している		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る力を大切にしながら、人生の先輩としての関わりを大切にしている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所が全てを抱えるのではなく、ご家族の地アヲを活かしながら、絆を大切に共に支える考え方を示し、実践できるよう努めている		

福岡県 グループホーム きらめき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者のこれまでの生活習慣の場所や店を訪れ関係が継続できるよう努めているが、十分ではない	入居者の自宅に全員で出かけ、庭に咲く樹齢100年という紅梅の見学を楽しむ機会もあった。また地域住民との新しい馴染みの関係作りにも取り組んでいる。	家族の協力も得ながら、充実しているアセスメントを活かした取り組みの広がりを期待します。
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係作りをたいせつに、施設内の利用者の理解をして頂くように心がけ、スタッフが橋渡しの役割もやっている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、入院先にお訪ねしたり、ご家族に電話をいれて、経過を伺ったり、時には、施設にきて頂き、ご相談を伺ったりしている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会議やミーティングでご本人の意思を尊重した暮らしをかんがえている	本人、家族からの情報を細やかに収集し、各担当者によるセンター方式を活用したアセスメントが行われている。暮らしの中での言葉や表情等から思いや願いの把握に努め、職員間での共有に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人、ご家族、近隣のかた、利用されていた、介護サービス事業所からの情報を活かし、これまでの生活が継続できるように努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要に応じてセンター方式のアセスメントシートを活用したり、スタッフの情報で見極めるようにしている		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意志、ご家族の思いを取り入れ、話し合いを行いながら調整している。家族の意向ばかりに偏らないようにしている	入居者、家族の意向を踏まえ、毎月のケア会議の中で検討が行われている。少なくとも3ヶ月に1回はモニタリングを行い、見直しにつなげている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の願いを見出し、ミーティングによってスタッフの主観でプランが進まないように、話し合い、かだいの経過や結果を記録に残しながら勤めている		

福岡県 グループホーム きらめき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の願いや思いに対応できるように、業務優先にならないよう、柔軟な工夫を全員で考え実践している		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域、民生委員、近隣、交の方々にご本人ご家族の同意をいただいたうえで、状況をお伝えし、地域とともにこれまでの暮らしを継続できるよう支援している		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医からの情報をたいせつに、事業所からの情報提供を徹底し、適切な医療を受けて頂けるように連携をしている	地域に根付いた母体病院が隣接しており、以前からかかりつけ医であった方も多い。既往歴や対応等、個別の医療的な留意点がファイリングされている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活の中で、医療に関する事や情報をスムーズに繋ぎ必要な医療を受けられるように心がけている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時、出来る限りお伺いして、ご本人のお話をお聞きしたり、病院スタッフとの情報交換して、安心して治療がうけられるよう、また早期退院できるよう努めている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関して、まだ十分な話し合い、確認が出来ていない状況で、現在ご家族、主治医、ご本人と説明、話し合いをはじめている	重度化や終末期に向けた指針を示し、同意を得ている。看取り支援については確認書を作成し、本人、家族の暮らし方の希望や、職員の意識、理解等を踏まえ、開設して3年目を迎える中で、今後の課題として捉え、体制の整備に向けて取り組み始めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、資料も含めて、手当て対応について意識はあるが、実践力については十分ではない		

福岡県 グループホーム きらめき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には、近隣の方に参加して頂き、施設内の構造を理解して頂いている。地域の方の参加や消防署の立会を重ねていくうちに、職員の意識は高まってきている	消防署の指導による訓練も含め、年3回の昼夜を想定した避難訓練を実施している。今年度は地域住民の参加を得て、実践的な避難訓練が行われており、地域住民も参加する反省会も行われている。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を基本とする対応はつねに心がけている。すた	認知症に関する事例検討を行いながら、入居者一人ひとりの尊厳について考え、日々の暮らしに反映させていくことに取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意志確認は必ず行っており、自己決定を基本としている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを把握し過ごし方については、希望に沿えるように支援している。必要なニーズに関して対応できるよう、勤務シフトを変更する事もある		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び、髪飾り、帽子等ご本人にえらんで頂き買物で自身でえらんでいただくこともある		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについてリクエストを聴いたり、味付け、固さ等個々に対応できるようにしている。食事作りも声かけを行い、一緒に行っている	買い物や調理、後片付け等をともに行い、力を発揮してもらっており、オープンキッチンからは調理の様子が直接伝わってくる。職員もともに食卓を囲み、それぞれの方のペースに合わせた、ゆっくりとした食事風景があった。定期的に栄養士のチェックを受けている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分については、個々のご希望に沿って刺し上げている。水分量の調整、食事携帯についても、主治医等にも意見を聞き対応している		

福岡県 グループホーム きらめき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行い、介助が必要なご利用者には磨き残し部分を手伝い、清潔保持に努めている。歯科医師からの助言も頂き実践するようにしている		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努め、失敗による不安感・焦燥感軽減の為声かけを行っている。出来る事出来ない事への支援で自立へと取り組んでいる	個別のパターンや状況の把握に努め、羞恥心や自尊心への配慮を行いながら、トイレ誘導を行っている。食材や水分等の摂取にも配慮や工夫を行い、自然な排便となるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の排便パターンを考慮し繊維質の食物を献立に取り入れ便秘予防に取り組んでいる。また牛乳を含めた水分の摂取、散歩、体操等の運動も取り入れている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を望まれる方は入浴して頂いている。要望に応じ午前中に対応する場合もあるが、時間帯は午後になっているのが現状である。曜日を特定することはしていない	本人の希望や状況等に応じて柔軟な対応が行われており、毎日の入浴にも対応している。入居者の希望にあわせた入浴剤を用いる等、ゆっくりと楽しめるよう配慮している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の習慣に応じて、休息、安眠の支援を置かれている。本人本位を基本として支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の目的、副作用、用量、用法について理解できているとは言えない。会議等で薬剤師、看護師の研修を行う様になっている。書状の変化については、細やかに確認するよう努めている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分とは言えないが、得意な分野での力の発揮、役割を活かした支援を行っている。馴染みの地へのドライブ、買物、散歩で楽しみ気分転換を図っている。		



福岡県 グループホーム きらめき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出支援は特定のご利用者を除き、まだまだ不十分である。ご家族、地域の方々への協力も十分とは言えないと思う。今後の課題と思っている。</p>	<p>日常的な外出支援については、職員の積極的な姿勢もあり、課題としても捉えている。</p>	<p>広い敷地内にあり、日常的な散歩や外気浴には恵まれた環境にある。趣味活動や社会参加等の機会の充実も含め、家族や地域の協力を得ながら、活性化への支援へとつながることを期待します。</p>
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員はご利用者におかねを持って頂く大切さは理解しているが、お一人のご利用者以外は支援出来ていないのが現状である。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話はご本人がされる事もあがるが、手紙については殆どなされておらず、文字を書くことも含め、支援したいと思っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者の体感に合わせての、室温、日差しの調整を行い、季節感はお花を飾ったりして工夫している</p>	<p>中庭に面したりリビングの窓は大きく設けられており、明るく、開放感がある。和室スペースやソファが設置されており、それぞれの方にとってのくつろぎの場所が確保されている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合ったご利用者との関係を大切にしてい、ご利用者同士での人間関係の構築ができるよう支援している</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの品、写真等ご家族に協力して頂きながら、安心できる環境作り心掛けています</p>	<p>筆筒やテーブル等の使い慣れた家具や、大切なもの、馴染みの品々が持ち込まれており、安心して過ごせるよう居室作りが行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ、廊下に手すりを設置したり、玄関では、座って履物が履ける用、安全に配慮してなるべく自立できるように工夫されている</p>		